

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第九小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	学校教育目標達成に向け、校長の学校経営方針を全教職員に浸透させるために、年度当初に学校経営方針を作成・配付した。 校長の学校経営方針を念頭に置きながら、児童一人一人の実態を把握したうえで、校務分掌組織を活用して具体的な改善策を検討した。改善策実施にあたっては、職員会議や学年会等を通して共通理解・共通行動が徹底できるようにした。	B	教職員全員が教育目標等を熟知して、その目標達成のために、日々努力していると思う。休校もあり、大変な年だったと思うが、その中で、先生方の共通理解・共通行動を徹底できた事は良かったと思う。突然の休校の際、学習課題の配付等きちんと配慮してもらった。修学旅行の実施等、学校全体で協力してもらってできたことだと思っている。全教職員で丸となって目標達成に向けて取り組まれている。様々なことを少なからず制限されてしまう状況で評価をすることが難しい。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	事故を未然に防ぐための事故防止年間計画を作成して、それに基づいて教職員間で声かけをしたり、児童へ直接指導したりした。 日常点検や定期点検では、児童の視線や動きを想定して実施をした。また、臨時点検では、他校の事故事例から再発防止の視点を学んで実施した。これらの点検により、児童のけがの原因となる施設設備事故はゼロであった。	B	施設設備事故無しとの事で、日々の点検を怠ることなくきめ細かい配慮がなされていると思う。施設設備事故がゼロであったことは良かった。小学生は、予測不可能な行動をする年代だと思うので今後も続けてほしい。事故ゼロは素晴らしい。全体的に学校の自己評価を尊重する。様々な取組をされている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	C	基礎学力を定着させるために、加配教員やあさか・スクールサポート、複数担任補助員を活用して、少人数指導やT、T、を意図的・計画的に実施した。また、ドリルや小テストを繰り返し実施することで、漢字及び計算力を定着させた。 学力・学習状況調査の結果から国語の「話すこと・聞くこと・書くこと」や算数の「数量」や「図形」についての技能に課題が見られた。算数を苦手としている児童を対象とした「サマースクール」「ウインタースクール」は夏季休業日、冬季休業日が短縮されたため、今年度は実施できなかった。	B	活動に意欲の少ない児童、苦手意識、不安感を持つ児童に対し、スムーズに次の段階に導いていく為にどのような工夫がなされているのか気になるところである。コロナ禍で「いつも通り」がなかなかできない中、休校もあり、大変だったと思う。勉強が苦手な児童を別な形で助けられると良い。算数の少人数指導を一度も受けられず卒業する学年もある。宿題の量、質についても研修等でアイデアを出し合うのはどうか。小テストの取り組ませ方も同様。学年にもよるだろうが、徐々に学力が向上してきている。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	学力・学習状況調査結果を分析し、課題となった算数の「数量」や「図形」に重点を置いて授業改善を実施した。特に、実物教材やICT機器を活用するなど工夫することで、児童の興味・関心を高めた。 校内研修では算数科の研究授業を複数回実施した。指導者を招聘して、実際に参観した授業、DVDによる授業の記録を通して指導していただき、授業改善に取り組んでいる。	B	全員の共通理解が得られれば問題はないと思うが、配慮を必要とする児童の指導・サポート対応がどのようになされているか気になるところである。教材等、児童の興味・好奇心を高めるのは良いと思う。算数は特に学習指導要領が変わって以降、更に定着までの演習量が大切だと思われる。電子黒板以外のICT機器はどれくらい活用されているのか？様々な授業改善への努力で「勉強がわかる子」が増えている。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	C	規律ある態度に関して、「くつのかかとをそろえる」「時間を守る」の2点については、継続して指導してきた結果、全体としてよくできている。しかし、「元気がよいさつをする」「廊下の右側を歩く」授業の準備をするの3点については、課題があり、重点的に指導していく必要がある。今後も、学校全体として、児童の成長を認め、褒めることを通して、自己指導能力を育てていく。	B	決められた課題に向かって、理解した上で各自が意識していくしかないと思う。大切さを繰り返し伝えていくことで率先して行動してくれることを願っている。少し前に比べ、あいさつをする子が減ったように感じる。自然とあいさつができる雰囲気のある場所を地域の方もふくめ、作ってほしいと思う。算数は特に学習指導要領が変わって以降、更に定着までの演習量が大切だと思われる。電子黒板以外のICT機器はどれくらい活用されているのか？様々な授業改善への努力で「勉強がわかる子」が増えている。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	C	生徒指導委員会や学年会において、児童全体の実態分析を行い、それに基づいた生活目標を設定して組織で指導にあたってきた。月ごとの生活目標については、月初めの全校朝会、生徒指導委員会の担当が児童に分りやすく指導した。また、月ごとの生活目標を、廊下や階段、教室等に継続して掲示することにより、児童が定期的に意識するように工夫した。また、11月には代表委員会が計画をして「あいさつ運動」を実施した。	C	興味をひくよう、関心を持ってもらえよう、工夫を凝らしていると思うが、各自にそれらの事が響いていくことを願っている。あいさつ運動を児童が主体となって行うことは良い。児童の教員に対する信頼度が高いので、それは生活指導においてとても重要なと考える。私が知らない9小の児童から挨拶された。大変気持ち良かった。目標を設定して、工夫・改善に努めている。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	本校は、体育好きな児童が多く、体育の授業に意欲的に取り組んでいる。また、休み時間は、外遊びをする児童が多く、担任教諭も児童とともに遊んでいる。一方で、教室に残りがちな児童もいる。今後は、児童一人一人へ配慮もしながら、さらに意欲的に取り組める学習の場づくりの工夫や外遊びなども奨励していく。また、体育部が中心となって、コロナ禍でできる外遊びなども紹介していく予定である。	A	できなくなったことを嘆くより、何ができるか、又、新しい企画等でチャレンジしていく前向きな様子が伝わってきている。9小の児童は、放課後も元気に外で遊ぶ子が多く、ほほえましく見ている。休み時間に広い校庭で活動している子供達が本当に生き生きしている。苦手な子が無理に外に出されていないのなら、それでもいいように思える。(チャレンジは大切ですが)外遊びを含めて、体育の授業に意欲的に取り組んでいる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	C	例年、運動を得意としない児童を対象に、中休みに「ボール投げ教室」や「鉄棒教室」、「跳び箱教室」等の運動教室を実施してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できなかった。 また、持久走大会は今年度コロナ対応持久走記録会として「20mシャトルラン」の記録を測定した。1回目の記録をとり、中休みに校庭を5分間走る、約1ヶ月に2回目の記録会を行い、多くの児童は記録を伸ばすことができた。	C	コロナ禍の中で例年通りに実施できず、ご苦労をお察しする。制約のある中で、それなりに前向きな姿勢が伝わってきている。運動が苦手な子と得意な子の差が、最近大きくなってきているような感じがする。運動嫌いな子が増えているのでしょうか？今年度は若葉班遊び等が活発にできず残念。持久走がシャトルランに変わった理由に子供達が納得できていないようだった。コロナの中、工夫して体力の向上策を講じている。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	学校応援団には学習支援(家庭科のミシンなど)、環境整備(除草作業、花の苗植え)などをしていたが、成果を上げることができた。 例年実施している保育園や幼稚園とのなかよし交流会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施しなかった。また、朝霞第二中学校区で地域、保護者、小学校、中学校が連携して行っている、「ふれあいフェスティバル」も実施しなかった。	B	今年度はコロナ禍で、学校外との交流が出来ず、触れ合えず残念に思うが、中止になったことを嘆くより、他のことを考える機会になってほしい。なかなか保護者も集められない中で、学校応援団の活動ができ、良かったと思う。学校応援団の活動も様々な制約を受けたが、特に、校外学習時の見守りなど、児童に直接かかわる活動には多くの保護者が協力してくれる。コロナで制限が多かった中で、できる限りの連携をとっている。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	児童見守り隊2名の方が、1年を通して児童の登下校の見守りをしてくれている。特に、遅れて登校してくる児童や不審者などの情報交換をすることができ、児童の安全確保に役立っている。 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、グループではなく、保護者一人一人が当番表に従って、登下校時や放課後に地域を見廻り、児童の安全確保をしてくれている。	B	今年度は特に衛生面を考慮し、消毒や換気に気を遣ったの学校生活で児童も自発的にマスク、手洗い、消毒の意識も高まってきたと思う。保護者の協力、地域の方の協力の中で、安全に登下校できているこの環境がコロナの中変わらず続けられ良かった。学校・保護者連絡会で新しい方法を考えてもらったことは良かったと思う。交通量や車の流れが大きく変化したので、報告書のまとめなど公表して全家庭と共有してほしい。田島地区では、地域の人と保護者、児童とコミュニケーションがよくとれている。コロナの中で協力の形を工夫して取り組んでいる。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:3.0以上、C:2.6以上、D:2.6未満